

2025年度 経営計画

富士電機株式会社

2025年4月25日

© Fuji Electric Co., Ltd.

2025年度の経営計画についてご説明いたします。

■セグメント変更（2025年4月1日付）

エネルギー：設備工事および原子力を編入

インダストリー：器具を編入、DXソリューションを再編

- ・ エネルギー：プラントシステムのシナジー創出、発電プラント事業の一体運営による体質強化を狙う
- ・ インダストリー：商流拡大とコンポーネント拡販等のシナジー創出を狙う

■2025年度 経営計画（対前年）

売上高 11,400億円（対前年+166億円）

営業損益 1,180億円（対前年+4億円）

営業利益率 10.4%（対前年-0.1%）

純損益 810億円（対前年-112億円）

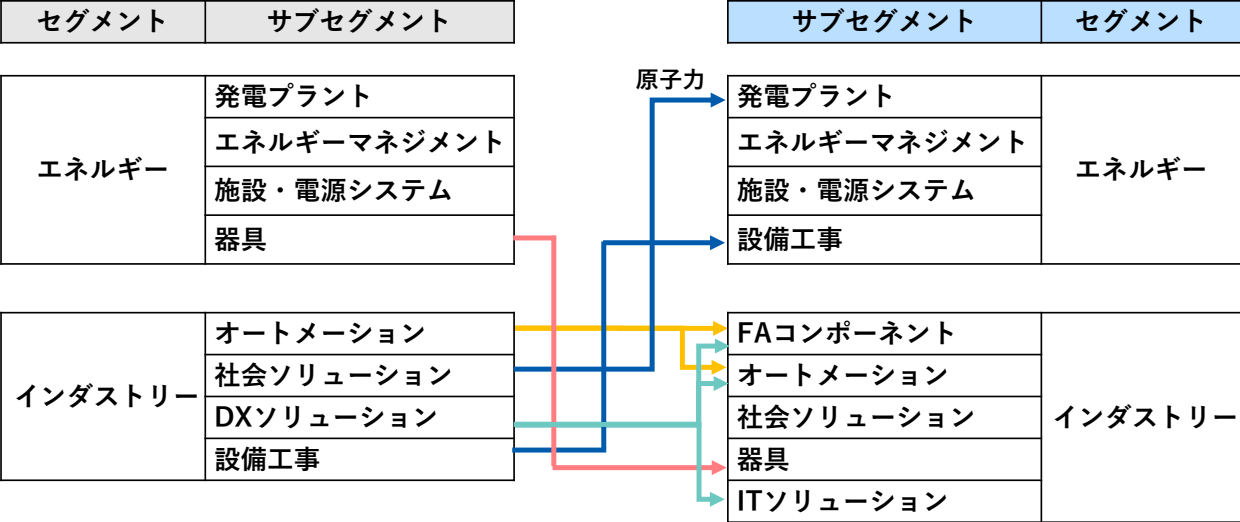
- ・ 対前年で増収増益、営業利益率は10%超、純利益率7%超堅持を目指す
- ・ 半導体、食品流通の減収減益をエネルギー、インダストリーでカバーし増収増益

セグメント変更

エネルギー：設備工事、原子力の編入でプラント事業一体運営、シナジー創出
インダストリー：器具の編入でコンポーネント強化
FAコンポーネント事業の製販一体化、収益力向上
DXの再編でデジタルとAIを活用したソリューション強化

変更前（2024年度）

変更後（2025年度）



冒頭で近藤社長よりセグメントの変更について簡単なお説明がございましたので、こちらの図を参照いただきながら、各数字の再構成についてご説明いたします。

通期 連結業績概要（対前年）

対前年で増収増益、営業利益率は10%超、純利益率7%超堅持を目指す

（億円）

	2024年度 実績	2025年度 経営計画	増減
売上高	11,234	11,400	-135* 166
営業損益	1,176	1,180	-34* 4
営業利益率	10.5%	10.4%	-0.1%
経常損益	1,188	1,165	-23
親会社株主に帰属する 当期純損益	922	810	-112
純利益率	8.2%	7.1%	-1.1%

	US\$	EURO	RMB
2025年度 為替レート	140.00 円	154.00 円	19.80 円
営業損益に おける 為替感応度	-1.4 億円	1.1 億円	3.4 億円

※ US\$、EUROは1円円安影響
RMBは1%円安影響

財務指標

*為替影響

ROE	14.3%	11.4%	-2.9%
ROIC	12.9%	10.7%	-2.1%
自己資本比率	52.7%	55.1%	2.4%
ネットD/Eレシオ※	0.1倍	0.1倍	-0.0倍

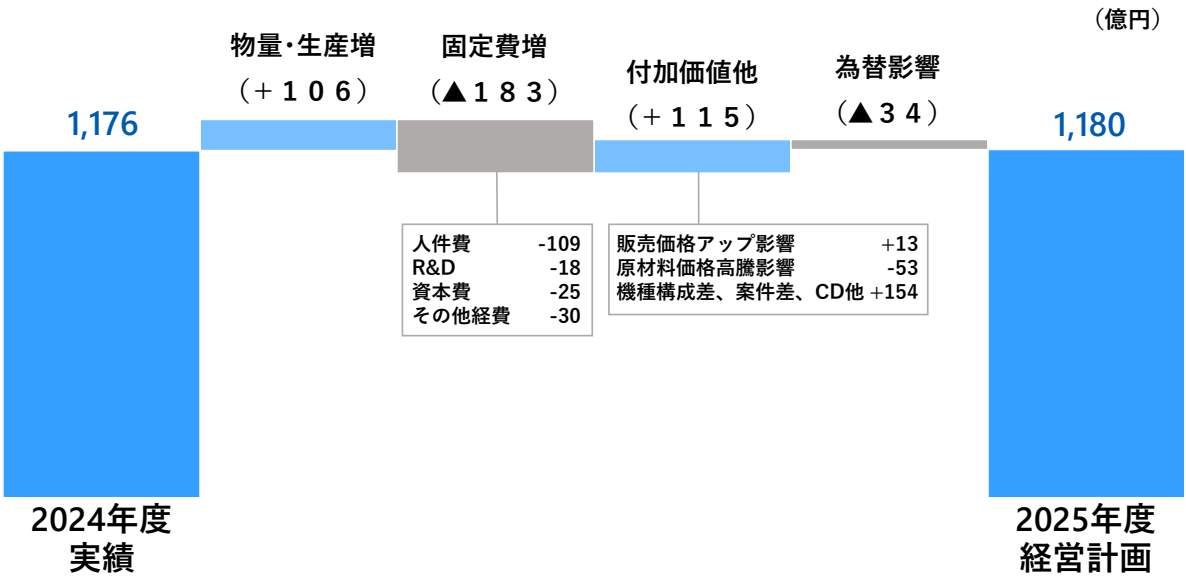
※ネットD/Eレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

当社では、連結業績の概要として、前年に対して増収増益を基本方針に経営計画を策定しております。たとえば、営業利益率は10%以上、営業純利益率は7%以上を維持する計画です。具体的には、売上高は1兆1,400億円を見込み、為替の影響として135億円、実質300億円の増加を目指しております。

営業損益につきましては、1180億円で増益となり、営業利益率は10.4%を計画しております。なお、前年は10.5%であったため、わずかに下回るものの、安定した水準を維持いたします。当期純利益は810億円、純利益率は7.1%を目標としております。為替レートにつきましては、右側の表に記載しております。ここ最近、米ドルに対して円高傾向となっており、たとえば1円円安の場合には、約1.4億円の営業損益減が発生する見込みです。昨年から為替感応度はマイナスの傾向にあり、海外での取引にも影響が出ております。

通期 営業損益増減分析（対前年）

固定費増、原材料価格高騰、為替影響等による悪化影響があるものの
物量・生産増、機種構成差、コストダウン等により増益



次に、営業損益の推移を示すグラフについてご説明いたします。物量・生産増は、エネルギー部門の物量増加、半導体部門の改善、器具およびITソリューション各分野の物量増などを背景に、106億円の増益を計画しております。

また、成長投資ともいえる固定費は、とりわけ人件費が前年より109億円増加する見込みです。資本費は慎重に検討しながら増額しております。付加価値他にある販売価格については、FAコンポーネントや器具の値上げを実施する一方、半導体産業分野では激しい価格競争が予想されるため、トータルで13億円のプラス効果を見込んでいます。一方、原材料価格の高騰は、これまでのトレンドを踏まえて約53億円のマイナス要因となる見込みです。機種構成差や案件差については、引き続き高い営業利益への貢献が期待されております。特に機種構成差においては、発電プラントで前年度のマイナス分を取り戻すべく取り組んでおります。また、半導体部門および食品流通部門では、コストダウン施策を強化しております。

通期 セグメント別売上高・営業損益（対前年）

半導体、食品流通の減収減益を エネルギー、インダストリーでカバーし増収増益

（億円）

	2024年度 実績			2025年度 経営計画			増減		
	売上高	営業 損益	営業 利益率	売上高	営業 損益	営業 利益率	売上高	営業 損益	営業 利益率
エネルギー	3,543	363	10.2%	3,745	465	12.4%	-46*	201	-6*
インダストリー	4,000	340	8.5%	4,135	405	9.8%	-41*	135	-6*
半導体	2,368	371	15.7%	2,230	215	9.6%	-48*	-138	-22*
食品流通	1,115	139	12.5%	1,050	120	11.4%	-65	-19	-1.0%
その他	561	38	6.7%	580	40	6.9%	19	2	0.2%
消去または全社	-354	-73	-	-340	-65	-	14	8	-
合計	11,234	1,176	10.5%	11,400	1,180	10.4%	-135*	166	-34*

※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています。

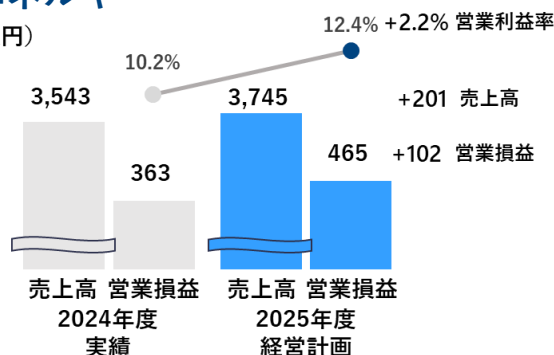
*為替影響

セグメント別の業績概況につきましては、冒頭で近藤社長がご説明された通り、今年度は半導体および食品流通が前年の好調に起因して厳しい状況が予想されるため、これまで投資を進めてきたエネルギー部門とインダストリー部門で成果を出していく計画です。セグメントの変更によりサービスセグメントの入れ替えも行われました。具体的には、エネルギー部門は営業利益率12.4%、インダストリー部門は9.8%、半導体部門は9.6%の水準、食品流通部門は特需がなくなったものの11%の利益率を維持する計画です。

通期 セグメント別業績概況（対前年）

エネルギー

（億円）

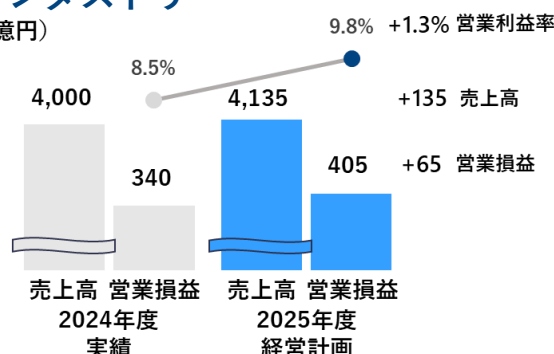


業績概況

火力・地熱の損益改善、エネルギーマネジメント分野の脱炭素関連および設備工事分野を中心とする需要増加を主因に増収増益

インダストリー

（億円）



業績概況

FAコンポーネントの収益力の改善、器具分野の需要回復、ITソリューション分野の需要増加を主因に増収増益

以下、各セグメントの業績概況をご報告いたします。詳細は、近藤社長の重点戦略説明および5月27日の各事業セグメント戦略説明会でご確認ください。

【エネルギー部門】

売上高は201億円増加して3,745億円、営業損益は102億円増加して465億円を見込んでおります。火力・地熱発電の損益改善、エネルギーマネジメントの強化、設備工事を含む需要拡大により、大幅な改善を図ります。

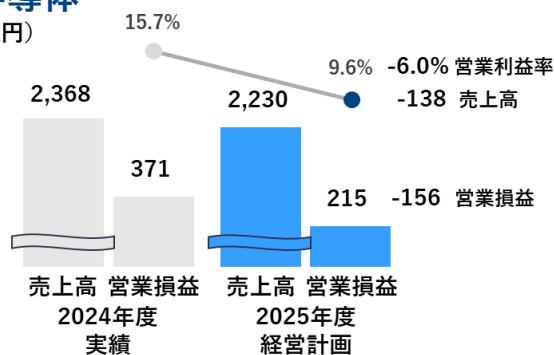
【インダストリー部門】

売上高は135億円増加し4,135億円、営業損益は65億円増加し405億円を計画しています。今年度は、FAコンポーネントの施策や、器具の需要回復、ITソリューション分野（特に文教分野）での需要増を背景に、増収増益を目指します。

通期 セグメント別業績概況（対前年）

半導体

(億円)

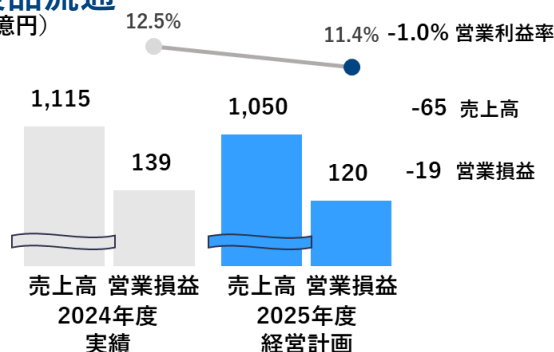


業績概況

産業分野は再エネ需要継続、FA需要の下期回復を見込み増収。電装分野は電動車（xEV）の物量減により減収。物量減、原材料価格高騰影響、固定費増、販売価格影響を主因に減益

食品流通

(億円)



業績概況

国内自販機の投資抑制、新紙幣発行に伴う自動釣銭機の改刷対応特需の反動減により減収。新製品の売上増による好転があるものの、改刷対応特需の反動減により減益

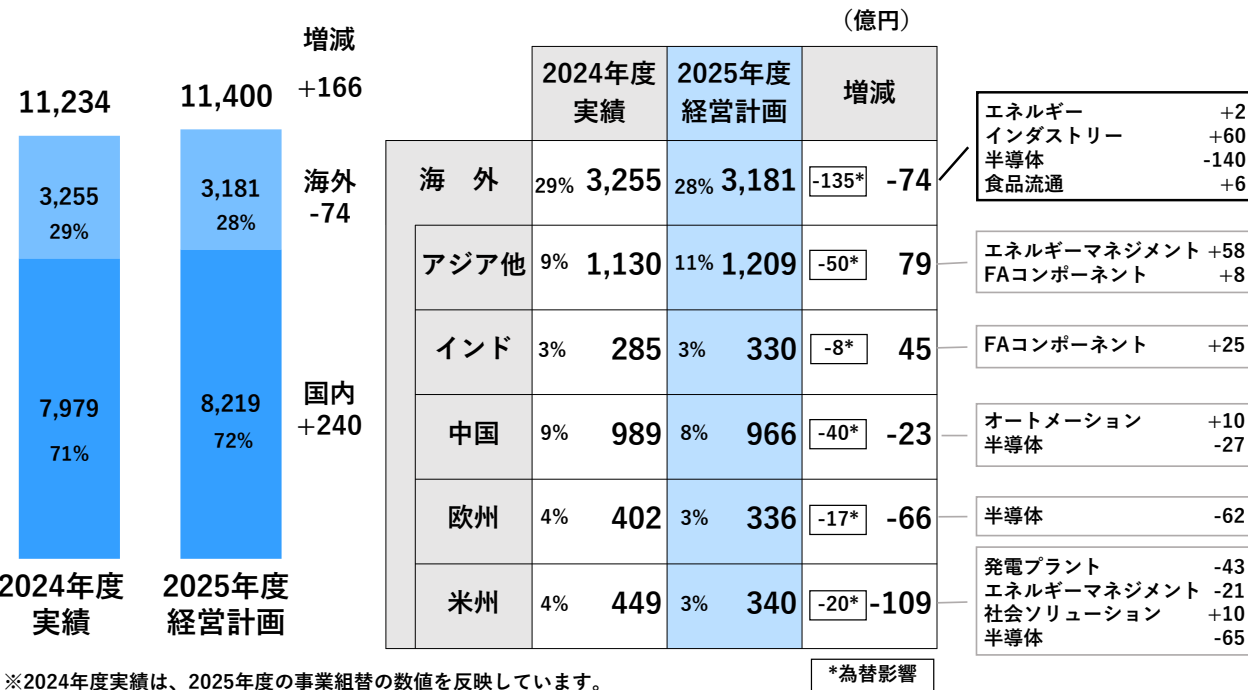
【半導体部門】

売上高は138億円減少して2,230億円、営業損益は156億円減少して215億円となる見込みです。為替の影響で、売上高で48億円、営業損益で22億円のマイナス要因が働いており、実質的には売上高が約90億円、営業損益が約134億円減少すると予想されます。なお、産業分野では再エネ需要の継続や下期のFA需要回復により増収が期待される反面、電装分野では電動車の物量減および欧米顧客を中心とした機種種の収束により物量の減少が見込まれる。さらに、原材料価格高騰、固定費の増加、為替影響も見込まれ、減益となる見通しです。

【食品流通部門】

売上高は65億円減少して1,050億円、営業損益は19億円減少して120億円、営業利益率は11.4%を計画しています。国内自動販売機部門では投資抑制、また自動釣銭機では改刷対応などの影響により売上が減少する一方、新製品による売上増効果での好転も狙っていますが、全体としては減益となる見込みです。

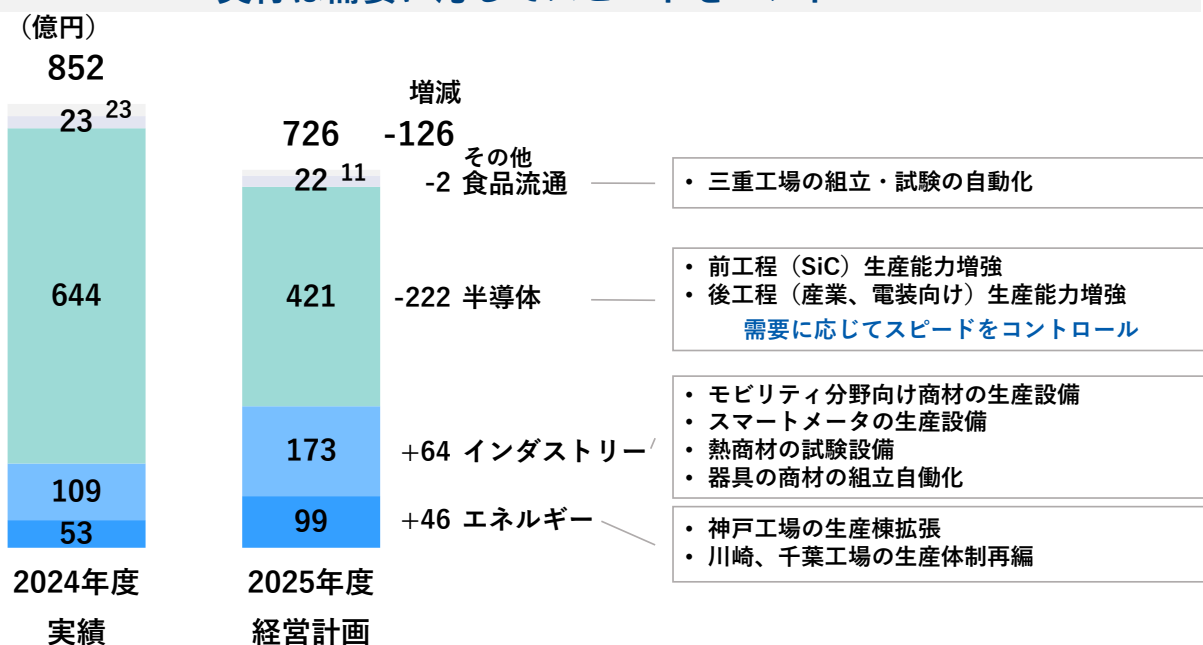
アジア他、インドで増収



【海外事業】

海外売上高は74億円減少が予想され、とりわけ半導体部門で大きなマイナスとなります。一方、アジア地域ではエネルギーマネジメントの売上増、またインドにおいては本格的なスマートメータの量産開始により、前年対比で45億円の増加、絶対額では330億円を目指します。

成長分野への重点投資を継続
実行は需要に応じてスピードをコントロール



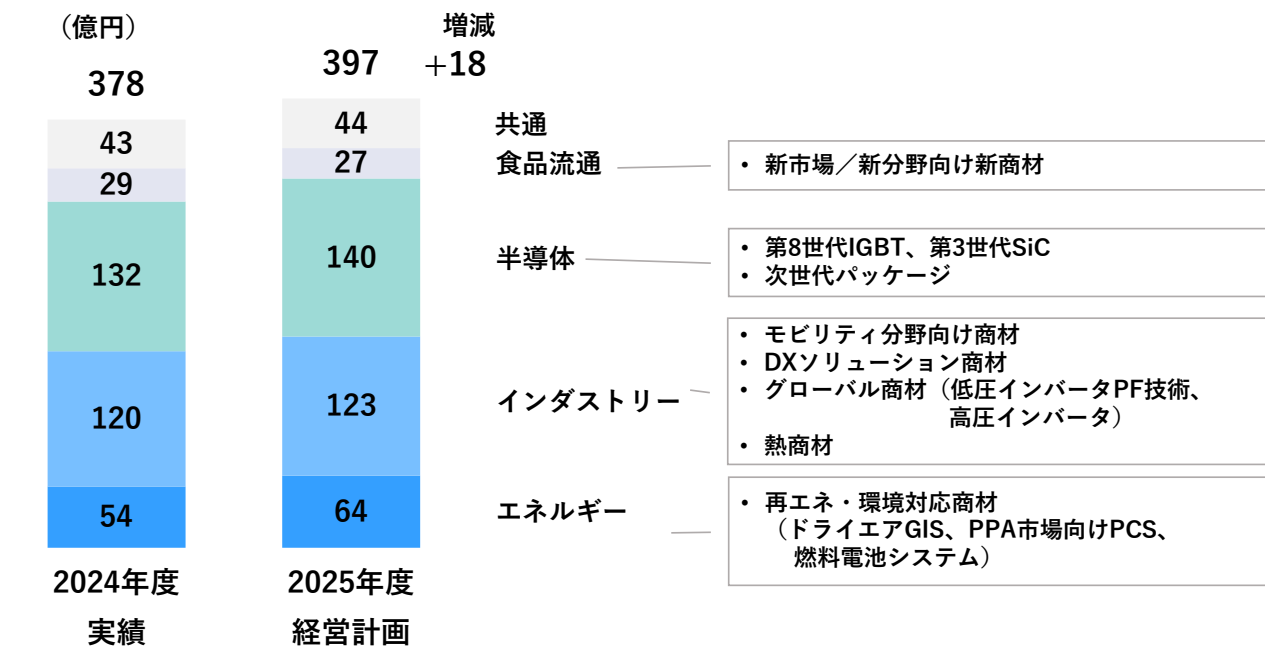
※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています。

© Fuji Electric Co., Ltd. 10

【設備投資】

前年に対し126億円減の726億円の投資を計画しております。半導体部門は222億円減少して421億円となる一方、インダストリー部門およびエネルギー部門では、生産能力増強等を含む投資を計画に盛り込んでおります。エネルギー部門では、神戸工場の生産拡大および川崎・千葉工場の生産体制再編を計画しています。インダストリー部門では、モビリティ分野やスマートメータの生産設備投資を合わせて64億円の増額が予定されています。半導体部門では、生産能力の調整や前工程での能力増強投資を継続していきます。

エネルギー、インダストリー、パワー半導体への積極的な開発投資を継続



※研究開発費はテーマに応じてセグメントに分類したもので、決算短信記載の数値と異なります。
※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています。

【研究開発投資】

18億円増加し、計397億円の投資を計画しています。中期経営計画で掲げた各テーマを基に、今後の成長を支えるための研究開発投資を行います。

年度末 貸借対照表（対前年）

総資産は、売上債権および有形・無形固定資産の増加を主因に増加

				(億円)			
資産の部				負債・純資産の部			
	25/3/31	26/3/31	増減		25/3/31	26/3/31	増減
現金及び預金	635	496	-140	買入債務	1,928	1,961	32
売上債権	4,178	4,347	169	有利子負債	1,049	898	-151
棚卸資産	2,387	2,383	-4	その他負債	2,838	2,734	-104
その他	467	504	37	負債 合計	5,815	5,592	-223
流動資産 計	7,667	7,731	64	資本金	476	476	-
有形固定資産	3,471	3,555	84	資本剰余金	646	646	-
無形固定資産	303	383	80	利益剰余金	4,939	5,498	559
投資その他の資産	1,680	1,687	7	自己株式	-43	-43	-
固定資産 計	5,454	5,625	171	株主資本	6,018	6,577	559
繰延資産	1	0	-0	その他の包括利益累計額	900	779	-121
資産 合計	13,122	13,356	234	非支配株主持分	389	407	18
ROE	14.3%	11.4%	-2.9%	純資産 合計	7,307	7,764	457
ROIC	12.9%	10.7%	-2.1%	負債・純資産 合計	13,122	13,356	234
自己資本比率	52.7%	55.1%	2.4%				
ネット有利子負債※1	422	411	-11				
ネットD/Eレシオ※2	0.1倍	0.1倍	-0.0倍				

※1 ネット有利子負債：有利子負債- 現金及び現金同等物

※2 ネットD/Eレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

【貸借対照表】

総資産は、売上債権の増加（169億円増）や、有形固定資産および無形固定資産の増加が主因となり拡大します。有形固定資産は設備投資を中心とし、無形固定資産は基幹システムの導入投資により80億円増加すると見込まれます。さらに、運転資金に関しては売上債権や買入債務の増加が事業拡大に伴い発生します。利益剰余金が積み上がることで、純資産は234億円増加し、資産合計も相応の増加となる見込みです。ROEおよびROICは前年を下回るものの、中期計画で掲げるROE12%以上、ROIC10%以上の維持に向けた取り組みを進めて参ります。

		(億円)	
		2024年度	2025年度
I	営業活動によるキャッシュフロー	1,449	1,114
II	投資活動によるキャッシュフロー	-634	-793
I + II	フリー・キャッシュ・フロー（FCF）	815	320
III	財務活動によるキャッシュフロー	-862	-429
IV	現金及び現金同等物の期末残高	627	487

【キャッシュフロー】

営業活動によるキャッシュフローは、売上債権や契約資産の増加、法人税支払いの増加にもかかわらず、1114億円を見込んでおります。投資活動におけるキャッシュフローは、半導体部門の設備投資が主因で793億円のマイナスとなる見込みで、フリーキャッシュフローは320億円を計画しています。

補足：第2四半期（中間期） 連結業績概要（対前年）

（億円）

	2024年度 実績	2025年度 経営計画	増減
売上高	4,974	5,190	-48* 216
営業損益	403	340	-15* -63
営業利益率	8.1%	6.6%	-1.5%
経常損益	389	310	-79
親会社株主に帰属する 中間期純損益	355	190	-165
純利益率	7.1%	3.7%	-3.4%

	2024年度 実績		2025年度 経営計画		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	1,440	100	1,630	150	-24* 190	-3* 50
インダストリー	1,754	81	1,915	85	-11* 161	-2* 4
半導体	1,080	151	1,030	75	-14* -50	-9* -76
食品流通	583	87	500	50	-83	-37
その他	274	17	265	15	-9	-2
消去または全社	-158	-32	-150	-35	8	-3
合計	4,974	403	5,190	340	216	-63

※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています。

*為替影響

【中間期の連結業績見通し】

売上高は216億円増加して5190億円、営業損益は63億円減少して340億円、純利益は165億円減少して190億円となる見込みです。前年度は上期に株式売却が実施されたため大きな差異がありましたが、今回の計画は以上の通りです。

以上が2025年度の経営計画の概要です。ご清聴ありがとうございました。

1. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
2. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
3. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。